

- 問1 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 1. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した | 2. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した | 3. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした | 4. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|--------------------------|
- 問2 16世紀半ばにキリスト教が日本に伝えられた当時の社会情勢や、その後の歴史的経緯について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 当時の日本は鎖国体制が完成しており、ヨーロッパ諸国のうちイギリス一国とのみ、長崎の出島で貿易を行っていた。 | 2. フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。 | 3. 豊臣秀吉は海外貿易の利益を重視し、バテレン追放令を出した後もキリスト教徒を一貫して手厚く保護し続けた。 | 4. 織田信長は仏教勢力との対抗を優先し、キリスト教の布教を厳しく禁じてキリスト教徒を弾圧した。 |
|--|--|--|--|
- 問3 1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。（2017年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|--------------|----------------|------------|
| 1. マゼラン | 2. ヴァスコ・ダ・ガマ | 3. フランシスコ・ザビエル | 4. マルコ・ポーロ |
|---------|--------------|----------------|------------|
- 問4 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。（2022年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 徳政令 | 2. 寄合 | 3. 下剋上 | 4. 惣領制 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問5 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。（2020年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である | 2. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枡である | 3. 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた | 4. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容積単位に基づいた枡である |
|---|--|---|--|
- 問6 16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。（2017年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。 | 2. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。 | 3. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。 | 4. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。 |
|--|--|--|---|
- 問7 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。（2017年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|
| 1. 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため | 2. マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため | 3. 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため | 4. ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|
- 問8 室町幕府の支配力が弱まる中で発生した、加賀国（現在の石川県）において浄土真宗の門徒らが守護大名を倒し、その後約100年にわたって農民らによる自治を行った出来事はどれですか。（2018年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 山城の国一揆 | 2. 島原・天草一揆 | 3. 加賀の一向一揆 | 4. 正長の土一揆 |
|-----------|------------|------------|-----------|
- 問9 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。（2016年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。 | 2. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。 | 3. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。 | 4. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。 |
|---|--|---|--|
- 問10 戦国大名は、自らの居城の周辺に家臣や商工業者を強制的に呼び寄せて住まわせ、領国支配の拠点となる町を築きました。このような町の形態を何と呼びますか。（2016年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 宿場町 | 2. 港町 | 3. 城下町 | 4. 門前町 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問11 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国（分国）内の武士や民衆を統制し、領国内の秩序を維持するために独自に制定した法律を何と称しますか。（2024年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|-----------|--------|----------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 公事方御定書 | 3. 分国法 | 4. 武家諸法度 |
|----------|-----------|--------|----------|
- 問12 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。（2018年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 1. 惣村 | 2. 寄合 | 3. 下剋上 | 4. 下請け |
|-------|-------|--------|--------|
- 問13 日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何と称しますか。（2018年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|----------|---------|---------|
| 1. 十字軍 | 2. ルネサンス | 3. 産業革命 | 4. 宗教改革 |
|--------|----------|---------|---------|
- 問14 戦国時代の堺において、自治的な運営を支えた商人の経済力や、当時の文化的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。 | 2. 勘合貿易の独占によって得た利益を背景に、幕府の役人が直接町を支配した。 | 3. 朝廷からの特権を得た公家たちが、伝統的な和歌や蹴鞠の文化を町衆に広めた。 | 4. キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの文化のみを追求した。 |
|---|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問2	答え 2 フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。	キリスト教の布教は、ポルトガルやスペインとの「南蛮貿易」と密接に結びついていました。鉄砲や火薬、生糸などの物資を得るために、九州を中心とした戦国大名は布教を許可し、自らも入信するケースが見られました。織田信長は布教を保護しましたが、その後の豊臣秀吉や江戸幕府は、キリスト教が封建的な支配体制を揺るがすことを恐れ、禁止へと方針を転換しました。
問3	答え 3 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問4	答え 3 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問5	答え 3 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問6	答え 3 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐えうる強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問7	答え 4 ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため	ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。
問8	答え 3 加賀の一向一揆	1488年、加賀の浄土真宗（一向宗）の門徒たちが団結して守護の富樫氏を自害に追い込みました。その後、加賀は「百姓の持ちたる国」と呼ばれ、約1世紀にわたる自治が実現しました。これは幕府や守護による中央集権的な支配が崩壊しつつあったことを示す象徴的な事例です。
問9	答え 3 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。
問10	答え 3 城下町	戦国大名は、領地を効果的に支配するために、それまで各地に分散していた家臣を城の周辺に集め、軍勢力を強化しました。同時に、武器の製造や物資の流通を担う商工業者を住まわせることで、経済の活性化も図りました。福井県の一乗谷（朝倉氏の拠点）などは、その代表的な遺跡として知られています。
問11	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の大名は自らの実力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、年貢に関する取り決めなどを定めた独自の法を制定しました。江戸幕府が制定した「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問12	答え 3 下剋上	応仁の乱以降、足利将軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。
問13	答え 4 宗教改革	16世紀のヨーロッパでは、カトリック教会が免許符（贖宥状）を販売するなど腐敗が進んでいました。これに対しドイツのルターは「九十五ヶ条の論題」を発表して教会を批判し、信仰のよりどころを教会ではなく聖書に求めるべきだと説きました。この動きはヨーロッパ全土に広がり、プロテスタントと呼ばれる新しい派閥が生まれるきっかけとなりました。
問14	答え 1 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。	堺の商人は、自由な経済活動を守るために「会合衆」を結成して自治を行いました。彼らは伝来したばかりの鉄砲の製造に着目し、その技術を確立することで各地の戦国大名と取引を行い、強大な影響力を持ちました。また、こうした豊かな経済力を背景に千利休が「わび茶」を完成させるなど、独自の町衆文化を形成しました。